

編集後記

『横浜国立大学教育学会研究論集』第4号が刊行されました。多くの会員の皆様の熱意に支えられて、無事刊行されたことを喜びたいと思います。学会発足から数えて4冊目の研究紀要となりますが、紀要刊行が定着してきたことの証といえましょう。

今後はさらに会員の要望に応えられるように、本学会の発展を期していくこととしたいと思いますが、研究紀要の持つ意味合いが一層深まっていくことでしょう。その意味では、この研究紀要がさらに多くの読者を獲得できるように努力していくこととしたいものです。

今号の研究論文は、査読の結果、3本の掲載となりました。長沼論文は、理科授業における自律性を育む授業デザインについての分析・検討をおこなったものです。松本論文は、小学校1年生を対象とした動物の繁殖や成長をテーマにした授業のなかで、子どもたちがいかにして動物概念を表現し、構築していくのかについての分析を進めたものです。真辺論文は、20世紀初頭の横浜金沢の地域社会の変容と同地の小学校との関係について、平田恒吉という個性的な校長の活動を軸にして分析を進めています。いずれも力のこもった好論文であり、多様な3本の研究成果を提示することができましたが、今後はさらに開かれた自由な学問的探求の場としての機能を高めていきたいものです。

編集・印刷にあたっては、今号も彩流工房の橋本隆昭氏のご協力を得ました。無理な注文にも誠実にご対応いただきましたことに、深く感謝いたします。

(機関誌編集委員会委員長 大戸安弘)